

# 病害虫速報 No. 6

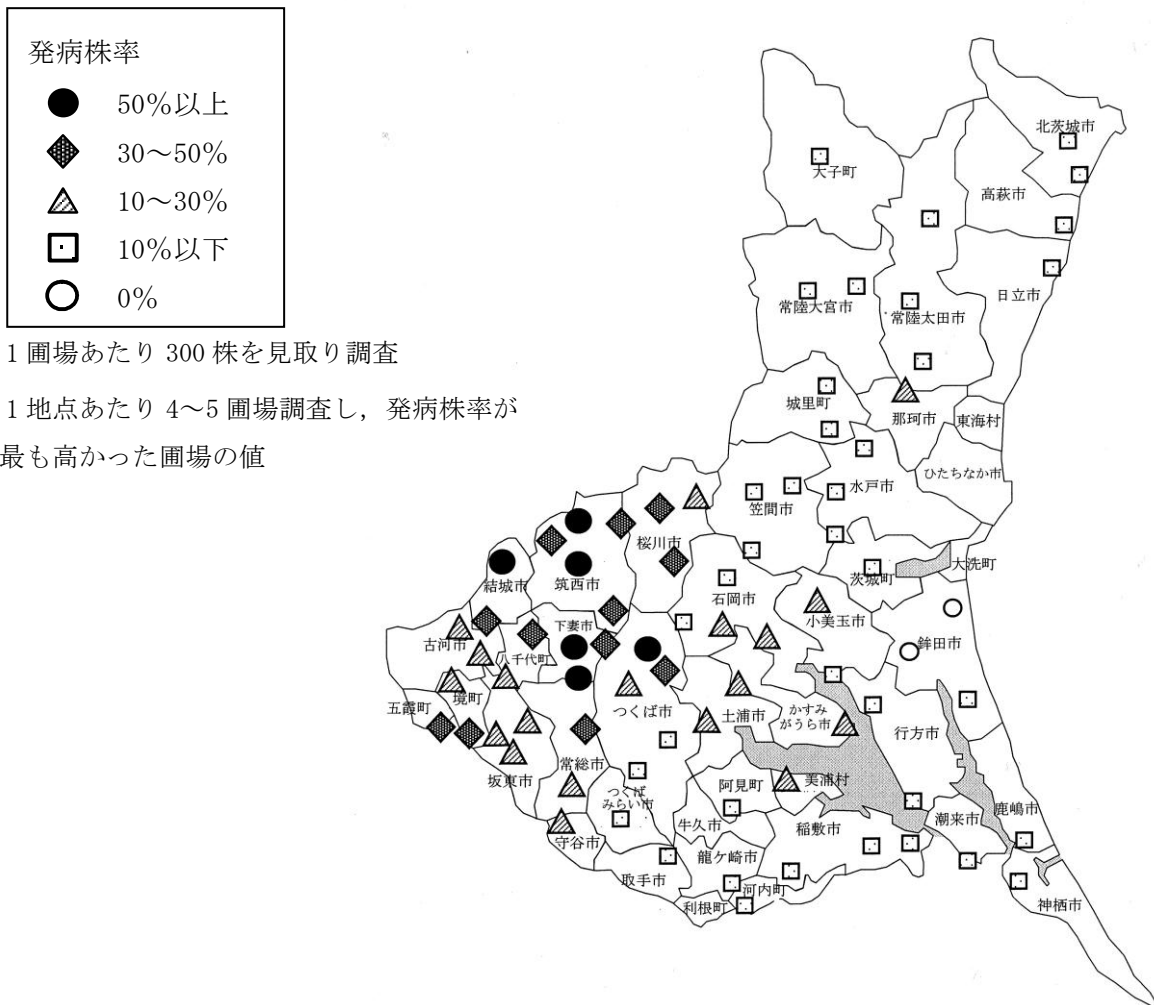
**県内全域のヒコバエ(再生稲)にイネ縞葉枯病が発生しています！**

**速やかに収穫後の耕起を行いましょう。**

**畦畔の除草を徹底し、育苗箱施薬の準備をしまししょう。**

**[現在の発生状況]**

- ① 平成 27 年 9～10 月に、県内 75 地点の水田におけるヒコバエ（再生稲）でのイネ縞葉枯病の発生状況を調査した結果、鹿行地域の 2 地点を除く全ての地点で本病の発生を確認した(図)。県全体のヒコバエにおける本病の発病株率は 8.4%と昨年と同等だった(表)。
- ② 県西地域の平均発病株率は、20.4%と県内で最も高く、次いで県南、県央、県北、鹿行の順であった(表)。



注 1) 1 圃場あたり 300 株を見取り調査

注 2) 1 地点あたり 4～5 圃場調査し、発病株率が最も高かった圃場の値

図 ヒコバエにおけるイネ縞葉枯病の発生状況

表 県内のヒコバエにおけるイネ縞葉枯病発病株率

地域	市町村名	平均発病株率 (%) ※		
		平成25年	平成26年	平成27年
県北	常陸太田市	1.5	1.3	1.8
	日立市	—	1.1	1.4
	高萩市	—	1.2	0.3
	北茨城市	—	0.1	1.6
	常陸大宮市	2.2	1.6	3.1
	大子町	2.7	3.0	4.1
	地域平均	2.1	1.4	2.0
県央	水戸市	1.8	0.8	3.0
	茨城町	—	1.1	2.9
	大洗町	—	—	—
	小美玉市	4.7	1.4	4.6
	ひたちなか市	—	—	—
	那珂市	—	3.2	15.4
	東海村	—	—	—
	笠間市	2.3	1.3	1.3
	城里町	1.2	1.9	1.8
	地域平均	2.5	1.6	4.8
鹿行	鉾田市	1.7	0.9	0.2
	鹿嶋市	—	1.5	1.1
	神栖市	—	0.4	0.6
	行方市	1.9	1.3	1.9
	潮来市	—	0.7	0.5
	地域平均	1.8	1.0	0.9

地域	市町村名	平均発病株率 (%) ※		
		平成25年	平成26年	平成27年
県南	土浦市	3.6	10.3	11.3
	かすみがうら市	1.0	2.9	8.4
	石岡市	3.6	1.6	9.0
	稲敷市	0.3	0.8	1.8
	河内町	0.0	0.3	0.5
	龍ヶ崎市	2.5	4.1	0.7
	牛久市	—	—	—
	美浦村	1.5	9.8	10.5
	阿見町	1.8	—	3.9
	つくば市	5.6	9.1	14.3
	取手市	0.3	14.9	4.3
	守谷市	—	—	6.9
	つくばみらい市	0.9	10.5	5.2
	利根町	—	—	—
地域平均	1.9	6.4	6.4	
県西	筑西市	35.1	25.5	29.0
	桜川市	7.1	9.9	15.2
	下妻市	38.6	20.1	37.6
	結城市	33.3	34.4	30.7
	八千代町	38.8	35.2	23.9
	常総市	1.3	21.1	16.3
	坂東市	1.9	23.4	7.1
	境町	29.5	38.0	13.6
	古河市	28.9	10.0	14.9
	五霞町	25.3	42.7	15.5
	地域平均	24.0	26.0	20.4
県平均	9.4	9.4	8.4	

※各市町村において1～5地点の発病株率を調査し、その平均値を算出

平成25年は、10月9日～11月8日に1地点あたり1～11圃場を調査

平成26年は、9月12日～10月24日に1地点あたり3～5圃場を調査

平成27年は、9月14日～10月20日に1地点あたり4～5圃場を調査

1圃場あたり300株を見取り調査

—：未調査

### [防除対策]

- ① ヒコバエは媒介虫であるヒメトビウンカの生息地となり、また、イネ縞葉枯ウイルスの伝染源となるため、収穫後の耕起を丁寧に行う。
- ② ヒメトビウンカは畦畔、土手等のイネ科雑草で越冬するため、畦畔等の雑草管理を徹底する。
- ③ 来年作では、6月上中旬頃に水田に飛来するヒメトビウンカ成虫の防除のため育苗箱施薬を行う。
- ④ 本年、育苗箱施薬を行ったにも関わらず本病が多発生した地域では、育苗箱施薬に加えて6月下旬～7月上旬に次世代のヒメトビウンカ幼虫を対象とした本田防除を検討する。あるいは、7月上旬まで効果が持続する育苗箱施薬剤を選択する。なお、本田防除を行う場合には、IRACコードもしくは系統が育苗箱施薬剤と異なる薬剤を使用する。
- ⑤ 本病による被害を軽減するため、主食用米では「一番星」や「あさひの夢」、飼料用稲では「夢あおば」、「ホシアオバ」、「クサホナミ」等の縞葉枯病抵抗性品種の導入を検討する。